牡丹江病院）

○出産前、出産夫人
一時入院す。

○妻二十七才
長女より脱出生中
在院つき
世児お産す、

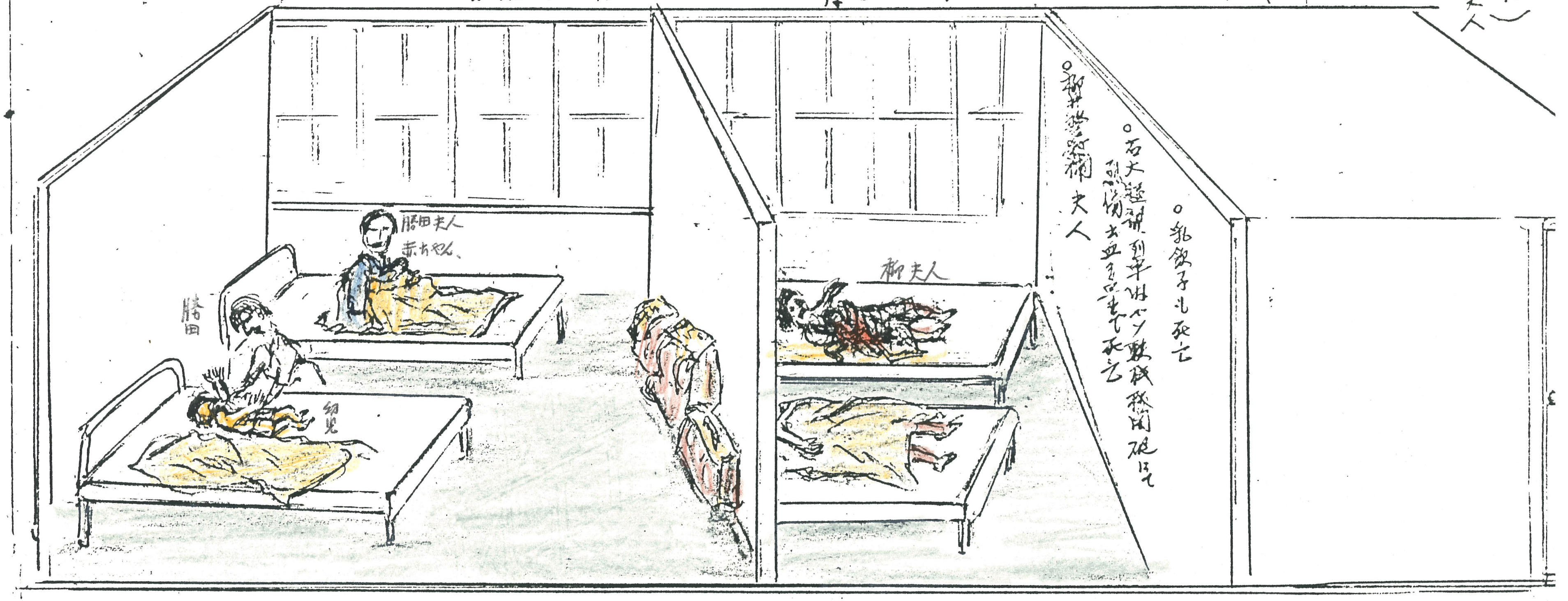
○昭和二十年八月十二日
到牡丹江病院に
入院す

○隊長夫人以下
婦女子は
三キロ離れた
牡丹江公園近く
小学校へ避難。

○その頃坂巻警
尉夫妻の姿は
見えず

○午后二時頃
ソ連空軍に
より爆撃を
受け。

○牡丹江病院入院
中の私の妻子
三人の下国の
一時入院が最后
で永遠の別れ
となった。



○柳井警部補夫人

○右大腿部
列車附少數機機関砲にて
頸傷出血多量で死亡

○乳飲子も死亡